

「若ノ嶋が勝ったあ、決定戦だ」と館内は大騒ぎ。「いやあ、千代に初めてのと輪で勝ったよ！」と錦風親方も大興奮。

館内の興奮が冷め止めまぬ中、決定戦のくじ引きが行なわれ、まずは東から若ノ嶋、西から千代鈴が土俵に上がる。

本割とは違って、東西入れ替わったの対戦となる。若ノ嶋は「こうなれば連勝だ！」と気合が入る。「二番続けて若閣に負けるわけには行かない！」と千代鈴。

観衆が固唾をのんで見守る中、本割同様、若ノ嶋、出鼻をくじかれた千代鈴は出足鋭い若ノ嶋のど輪を堪えきれず押し倒された。

「勝ったぞ〜！」と大喜びの若ノ嶋。勝ち名乗りを受ける若ノ嶋に館内も大歓声と拍手。

完全に若ノ嶋優勢の風が吹く中、西から西神門が土俵に上がる。これまた本割とは東西入れ替わったの対戦。若ノ嶋にとっては分の悪い西神門だが、大声援を受けてこれを力に変えたい若ノ嶋。しかし、土俵の神様は皮肉にも西神門に微笑み、若ノ嶋の夢を打ち砕いた。

敗れた若ノ嶋だったが、千代鈴が西神門に勝てばまだチャンスがあり、「もう一丁！」と土俵下の控えに腰を下ろした。決定戦で見ることができない千代鈴と西神門の同部屋同士の対戦。



若ノ嶋●(押し倒し)○西神門



若ノ嶋○(押し倒し)●千代鈴

「稽古場ではまったくの五分ですわね。」と春日根親方。勝負は「千代、頑張れ！」の若ノ嶋の願いが叶わず、弟弟子の西神門が千代鈴を押し倒して優勝を決めた。

千秋楽の相撲で春ノ翔に勝った関脇鬼ヶ嶽が7勝を、小結四季嶋が綱乃花に勝って7勝、四角嶋に敗れた綱乃花も7勝と、この3人が来場所以降の大関争いに名乗りを上げた。

新小結の夢ノ花が最後に連勝して勝ち越して三役の地位を守った。今場所、初観戦となった香具山親方は安堵の表情を見せていた。



櫻吹雪○(押し倒し)●宇治家



夢ノ花○(叩き込み)●磯自慢

また、悲願の新入幕泊に参加した櫻吹雪は前方の声を援を受けて見事に勝ち越し、親方も大喜びだった。

七日目時点で2敗となっていた西神門の優勝を誰も予想していなかった。今場所は千代鈴と若ノ嶋のどちらかと思われたが、予想に反して西神門の優勝で幕を閉じた。これまで場所は西神門の横綱獲りの場所となる。もし優勝すれば横綱昇進、そしてなんと5横綱となる。

4横綱も紙相撲史上初めてだったのに、果たして空前の5横綱時代となるのか。来場所も話題尽きない場所となりそう。令和7年最初の本場所は1月18日に初日の幕を開ける予定だ。(錦風)

十両も春日根、西の富士が逃げ切り

十両で優勝を果たしたのは、幕内を制した西神門に続き春日根部屋の伏兵西の富士だった。連日安定した相撲内容で10勝1敗の堂々たる成績をあげ、先場所東筆頭で負け越した悔しさを晴らすとともに、来場所の新入幕も濃厚となった。

1敗で西の富士、2敗で玉乱と音柱が追う展開で迎えた十日目。先に土俵に上がった音柱が逆馬山との一番に勝ったため、この時点で優勝の行方は千秋楽の取組に持ち越される

ことに。そして西の富士も鳥海波を寄り切った。3敗に後退し優勝争いから脱落、優勝は西の富士と音柱の二人に絞られた。



西富士○(寄り切り)●鳥海波

そして迎えた千秋楽、同部屋での優勝争いとなったことで、ひとり心ウキウキの春日根親方。先に音柱が鳥海波を難なく下し2敗を守り支度部屋に戻って西の富士の相撲をテレビで見届ける。

西の富士が勝てばすんなり優勝、負ければ決定戦となる一番、対戦相手となるのは逆馬山。逆馬山も十日目に負けて5勝5敗の星となり勝ち越しかかる譲れない大事な相撲。だが勝負はここまで隙の無い取り口を見せつけた西の富士が慎重に寄って赤房下で決着し優勝を勝ち取った。

東筆頭ですでに勝ち越しを決めている鹿麒麟が、千秋楽に葵盛に勝って再入幕に弾みをつける7勝目をあげた。鬼門の地位をクリアして、鹿賀乃戸親方も次こそは幕内定着をと願わずにはいられないところだ。

西の富士の陰に隠れてしまったが、西筆頭の太石丸も8勝を上げてこちらも新入幕かと思われたが、生憎、幕内からの陥落力士が現状二枚のため昇進順に一番手が鹿麒麟、二番手に西の富士の序列。本来ならば堂々の8勝を上げていて昇進も文句なしの成績のはずだが、このままでいくと見送りということになってくるかもしれない状況だ。

十両尻東西十四枚目の虹ヶ谷と黒夢心が6勝5敗で勝ち越しを決め何とか残留にこぎ着けた。一方で生駒山、御嶽灘、逆元春が幕下へ陥落。

生駒山は九十九部屋では関取輩出後、初めての陥落力士となり去就が注目されるが、28歳という年齢からもう一度幕下から再起をかけることも出来るが、九十九親方の判断如何というところになりそう。(山里)

幕下は虎麒麟、錦風の野望を砕く

幕下は5戦全勝で虎麒麟が在位10場所目にして初優勝を飾った。

四日目を終わったところで全勝は虎麒麟、逆青雲、栃尾山の3人。親方衆の予想では逆青雲と栃尾山がここのまでの相撲っぷりから見ても同部屋による決戦になると思われた千秋楽。

最初に虎麒麟と逆青雲が土俵に上がる。虎麒麟はこれまで何度か昇進のチャンスがあったが、あとも一歩届かなかった。しかし、これに勝てば念願の十両昇進も見えてくる大事な一番。両者互角の攻防を見せた後に左を差し勝った虎麒麟が寄り切りに下して勝負が決まった。



逆青雲●(寄り切り)○虎麒麟

これで次の取組で栃尾山が勝てば虎麒麟との決定戦、負ければ当然ながら虎麒麟の優勝が決まる。その栃尾山の相手となるのは1敗の自力岳。元々地力のある自力岳だが今場所の勢いではやはり栃尾山が有利だろうとの大方の予想。

しかし立ち合いで栃尾山の出足を止めた自力岳が左差しから寄り切りに破り場内を騒然とさせる結果に。まさか逆青雲に続き栃尾山までもが負けたとは思っていませんでした。虎麒麟の優勝が決まった。



栃尾山●(押し倒し)○自力岳

「優勝なんてこれっぽっちも考えてなかったよ」と棚ぼた的な優勝に一番当人が驚ろいている桐壺親方。同期で四股名に同じ麒麟を付けた鹿麒麟に出世では水をあげられてしまっていたが、ようやく関取として追いついた形だ。

虎麒麟の他に昇進を決めたのは逆起と磯雷